

回 覧

発行:余市協会病院  
発行日:令和6年10月1日  
発行人:吉田 秀明  
編集人:広報委員会  
お問い合わせ:0135-23-3126

VOL.227

9・10月合併号

はつらつ PLUS

## 職場体験 未来を支える希望の星☆



当院では、管内の中学校からの職場体験学習の受け入れを行いました。  
職場体験では、看護師をはじめとする様々な医療職の業務を模擬体験してもらいました。  
今回の体験を通して、医療従事者を目指すきっかけになれば嬉しいです。  
将来は医療人になって地域の医療を支える一員になってくれることを祈っています。  
(実施日：8月30日～31日 古平中学校、10月16日～17日 旭中学校)



8月6日広島原爆の日にあわせて当院の被爆樹木(イチヨウの木)が新聞で紹介されました。

新聞の記事と元気に成長していることを寄贈元へお伝えしたところ、『特定非営利活動法人 ANT-Hiroshima』さんより千羽鶴を贈っていただきました。

現在、当院ロビーに展示していますので、来院の際にぜひご覧ください。

みなさんに平和への願いが広まりますように!

平和の木に千羽鶴を  
いただきました!

# 歯＝舌の味コーナー

皆さん、こんにちは！

ハニカムコーナー第8弾です！今回は味覚についてお話ししたいと思います。

最近、味が感じづらくなった、お口の中が変な味がするなどの悩みはありませんか？

味覚は舌で感じるものです。味覚は甘味、塩味、苦味、酸味、うま味の5つが基本的にあります。味を感じる感度でいうと苦味→酸味→うま味→塩味→甘味の順に弱くなります。苦味が1番強く感じやすいのです。

舌には味蕾といった味を感じる細胞があり、子供の頃が1番多く、年齢を重ねるごとに減っていきます。赤ちゃんが好き嫌いが多いのは味蕾が多いので味に敏感だからです。大人になるにつれて食べられるものが増えていくのは味蕾が減ってきているからなんですね。

味覚障害というのは様々な要因があります。一般的にはストレスや、亜鉛不足などが挙げられます。口腔内の唾液の量が減っていても味が感じづらい、味蕾がうまく働いてくれないといった要因もあります。つまり口腔内が渇きやすい人は味が感じづらいのです。じゃあ、どうしたらいいの？と思いますよね。

対策としては栄養バランスの取れた食事を心がけたり、よく噛んで唾液を出すようにしたり、唾液腺マッサージをしてみるのも効果的です。舌の白い方、舌苔が付着している方は舌ブラシを使用してみるなど、セルフケアをしっかりとるのもとても良いかと思われます。

それでも中々セルフケアで改善がみられない方は歯科や耳鼻咽喉科にかかって相談してみるのはいかがでしょうか？

もちろん、お口の中のケアも大事ですので半年に一回は定期検診にいきましょう！

何事も早めに対処するのが大切です。GO！GO！歯医者です！



ロビーにハロウインの飾り付けをしました。  
**ハロウイン飾り**



## 救急件数

(6月)

(7月)

外来受診 200件 うち入院 43件  
救急車来院 81件 うち入院 39件  
外来受診 172件 うち入院 37件  
救急車来院 82件 うち入院 50件